

自然資源を活用した地域振興をテーマとする野外実習

：環境を学ぶ大学生に対して

植木 岳雪

(帝京科学大学教育人間科学部)

千葉県で環境を学ぶ大学3年生に対して、2017年に自然資源を活用した地域振興をテーマとする野外実習を行った。茨城県中部において、地域住民による漁と料理を体験し、漁協によるシジミの養殖施設、茨城県によるキノコ類の調査・研究施設、水戸市により整備された遺跡公園を見学した。この実習に対して、大学生は良い評価を示した。

キーワード：地域振興、野外実習、自然資源、環境教育、茨城県

1. はじめに

現在、地球温暖化やオゾン層の破壊など影響の範囲が地球規模に及ぶものから大気汚染や水質汚濁など地域的なものまで、さまざまな時間・空間スケールの環境問題が生じている。人類の持続的な開発と発展のためには、特に将来を担う青少年が自然を理解し、環境問題の解決方法を探る必要がある。

大学生に対する環境教育では、自然体験活動のような野外実習自然体験活動の不足が指摘されているが(松本ほか, 2009)、野外実習を行うことによって、大学生の自然のイメージを身近で肯定的に変容させたり、環境保全

の興味・関心を高める事ができるとされている(篠原ほか, 2012, 2013; 黒田ほか, 2015; 近藤, 2016)。一方、エコツーリズムのように、近年自然資源の保全と地域振興を両立する活動が進められている(佐藤, 2012; 鈴木ほか, 2016 など)。そこで、千葉県銚子市にある千葉科学大学危機管理学部環境危機管理学科(現在は募集停止)では、3年生の必修授業「野外調査法」の一環として、自然資源を活用した地域振興をテーマとする野外実習を実施することにした。本報告では、2017年5月31日(土)と6月1日(日)に、茨城県中部で行った野外実習の内容を紹介する。

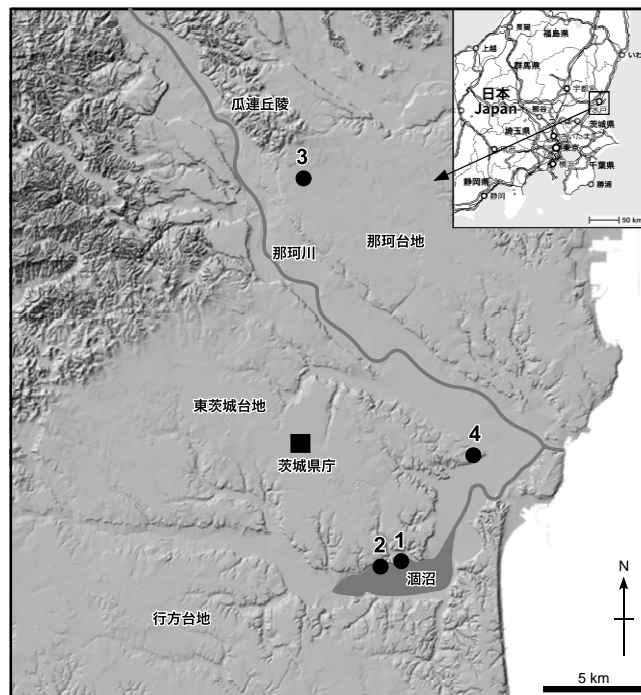


図1 各地点の位置

基図は国土地理院による地理院地図、インセットマップはYahoo 地図より作成。

2. 実習の内容

2.1. 漁と料理の体験

潤沼は、茨城県中部にある周囲約 22 km、面積 9.35 km²の汽水湖であり、2015 年にはラムサール条約登録湿地となった。満潮時には河川を通じて海水が流れ込むため、汽水性魚介類の好漁場となっている（小林, 1986 ; 茨城動物研究会, 2001 など）。また、潤沼を取り囲む東茨城台地と行方台地では、野菜、果物、サツマイモなどの農業生産が盛んである。

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会は、潤沼北岸の地点 1 (図 1) 周辺で、農家民泊、農漁業、伝統芸能体験等などによって都市と農村との交流を図り、地域の活性化を目的とする任意団体であり、茨城町が全面的にバックアップしている。この協議会が主催する体験活動に申し込み、協議会の方の指導を受けて、伝統的なさし網漁や笹漁によってカニや小魚を獲った (図 2-A~C)。また、地元の野菜を使った郷土料理の花巻寿司やその前に獲ったカニや魚を調理し、昼食とした (図 2-D~F)。そして、竹製のイカダ漕ぎを行い (図 2-G)、協議会と茨城町役場の方と一緒に記念撮影を行った (図 2-H)。なお、これらの活動は、ひろうら田舎暮らし体験推進協議会のホームページのプロモーションムービー (図 3) を参照してほしい。

2.2. 養殖施設の見学

潤沼では古くからシジミ漁が盛んであるが、近年では漁獲量は最盛期の 1/3~1/20 に激減している。そのため、地元の漁協ではシジミ種苗の生産と放流を行い、成員の安定供給を目指している。潤沼北岸の地点 2 では、雨谷秀之氏にシジミ漁の説明とシジミ種苗生産施設の案内をしていただいた (図 2-K, L)。

2.3. 公設試験所の見学

茨城県林業技術センターは那珂台地と瓜連丘陵との境界付近の地点 3 にあり、林業生産、環境保全、林産物に関する研究や林業に関する普及指導を行う公設試験所である。きのこに特化した「きのこ特産部」が設置されている点が特徴である。ここでは、小林久泰博士にきのこ栽培の説明と、バックヤードを含む栽培施設、センター周辺の森林の案内をしていただいた (図 2-K, L)。また、センターに隣接するきのこ博士館の展示を見学した (図 2-M)。

2.4. 考古遺跡の見学

大串貝塚ふれあい公園は東茨城台地東端の地点 4 にあり、縄文時代前期に形成された国指定史跡の大串貝塚を水戸市が整備した公園である (大串貝塚調査団, 1986 ; 常澄村教育委員会, 1991 など)。巨人「ダイダラボウ」の伝説を伝えるために、高さ 15 メートルのコンクリート像が造られている。ここでは、貝層断面観覧施設において貝塚の地層を観察し、縄文くらしの四季館 (現在は埋蔵文化財センター) において発掘された遺物やパネル展示を見学した (図 2-N)。

2.5. 活動の振り返り

野外実習中には、宿泊施設において 1 日目の体験活動をポスターにまとめた (図 2-O)。また、野外実習後に、2 日間の活動をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションを行った。

3. おわりに

環境を学ぶ大学生に対して、茨城県中部において、自然資源を活用した地域振興をテーマとする野外実習を行った。実習では、地域住民が主催する活動を体験し、養殖施設、公設の調査・研究施設、整備された公園を見学した。それに対して、大学生はおおむね良い授業評価を示した。

大学で専門が決まっていない時期に行う野外実習 (例えば、1・2 年次の必修授業) として、今までに地形・地質、植物・菌類、水生動物、水質、理科教育にまたがる分野横断型の実習 (植木ほか, 2016) や、活火山のような非日常的な景観を観察する実習 (植木, 2021) を行い、それらは大学生の自然に対する興味・関心を高めるのに効果があった。それに加えて、本報告のように、自然を資源として地域振興に活用することを含めた実習も有効と思われる。そのためには、大学が地域住民や行政とコネクションを作ったり、連携することが必要になるだろう。

謝辞

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会と茨城町役場の方には潤沼の水辺体験で、大潤沼漁協の雨谷秀之氏には養殖施設の見学で、茨城県林業技術センターの小林久泰博士にはきのこ栽培施設の見学で、それぞれお世話になった。本実習は小濱 剛、糟谷大河 (現慶應義塾大学)、縫村崇行 (現東京電機大学) の各教員の協力を得て行われた。ここに深く感謝申し上げます。

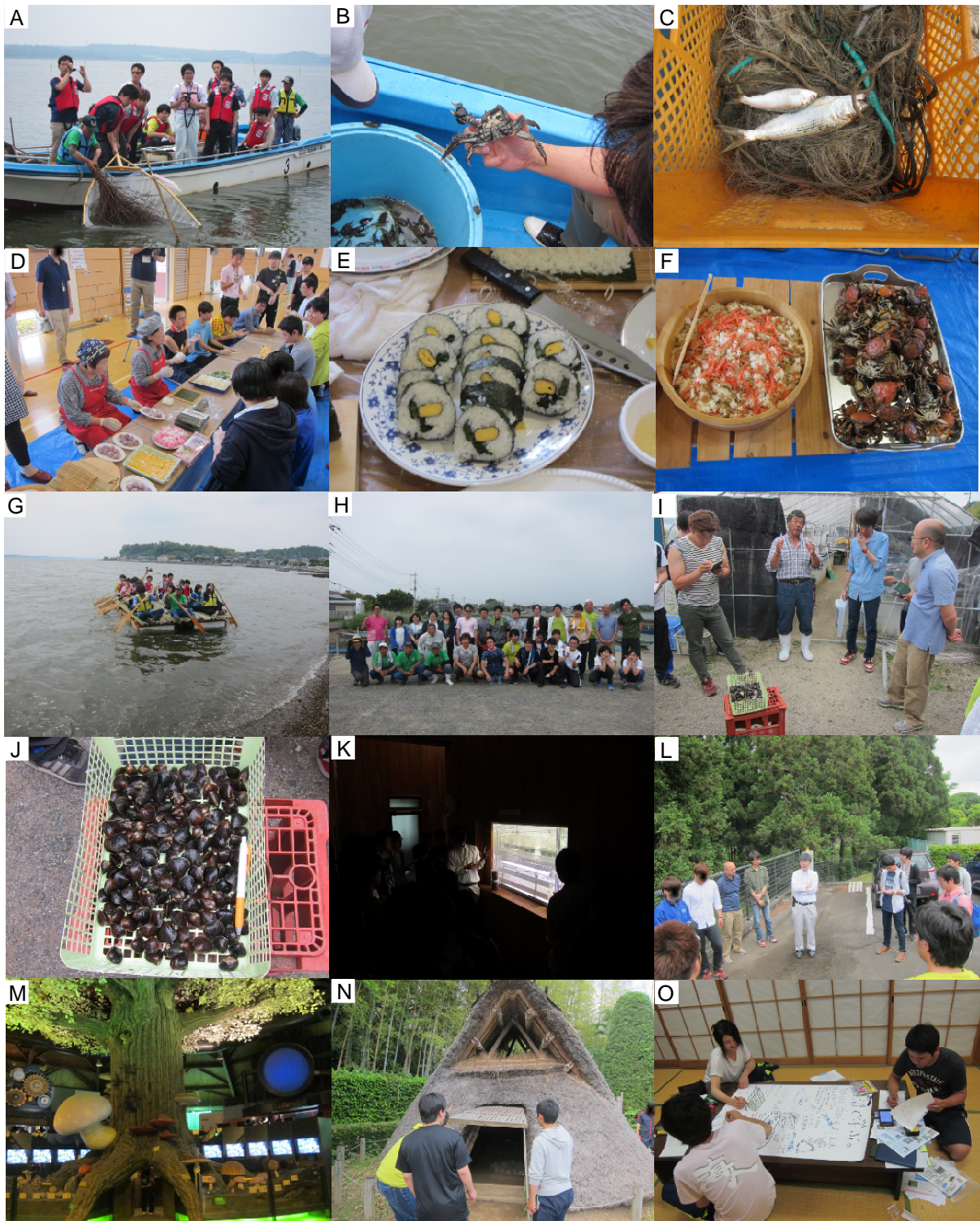


図2 大学生の活動の様子

- A、瀬沼における笹漁の体験；B、笹漁で獲れたモクズガニ；C、さし網漁で獲れた小魚；
 D、花巻寿司作りの体験；E、完成した花巻寿司；F、小魚の寿司とモクズガニの煮付け；G、イカダ漕ぎ；
 H、ひろうら田舎暮らし体験推進協議会と茨城町役場の方との記念撮影；I、シジミの養殖施設の見学；
 J、大きく育ったシジミの成貝；K、茨城県林業技術センターにおけるきのこ栽培施設の見学；
 L、センター周辺の森林の見学；M、きのこ博士館の展示；N、大串貝塚における縦穴式住居の見学；
 O、宿泊施設におけるポスター作成。

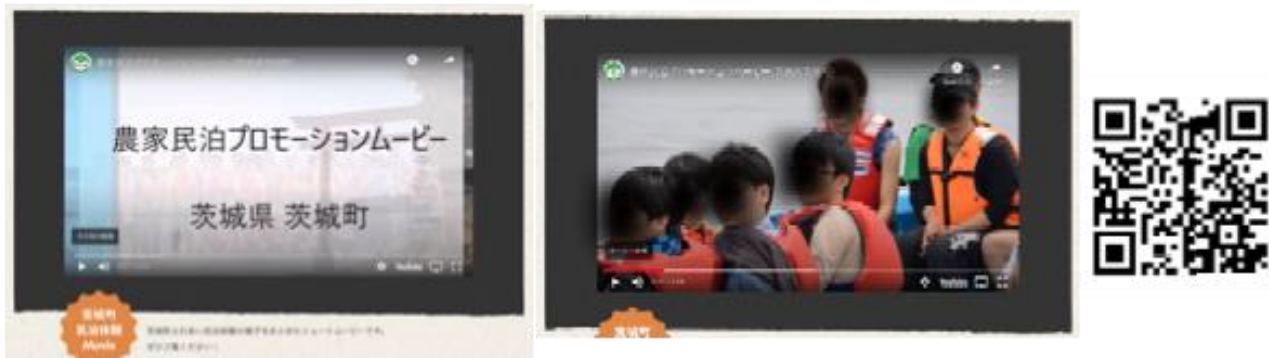


図3 ひろうら田舎暮らし体験推進協議会のホームページのプロモーションムービー (URLはQRコードを参照)

引用文献

- 茨城動物研究会 (2001) . 「涸沼および涸沼川の魚類」『茨城県自然博物館第2次総合調査報告書』291-302.
- 小林 稔 (1986) . 「涸沼におけるヤマトシジミとその生息環境」『茨城県内水面水産試験場調査研究報告』, 23, 27-37.
- 近藤 剛 (2016) . 「大学における野外実習が参加学生の自然認識に及ぼす影響」『鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要』73, 35-44.
- 黒田貴綱・笹田勝寛・河野英一・島田正文 (2015) . 「大学生の野外実習における環境意識の変化とその教育効果に関する研究」『環境情報科学学術研究論文集』29, 253-256.
- 松本晶子・釜本健司・早石周平 (2009) . 「大学生の環境教育における自然体験活動の意義」『沖縄大学人文学部紀要』11, 43-52.
- 大串貝塚調査団 (1986) . 『大串貝塚 常澄村埋蔵文化財調査報告 第2集』常澄村教育委員会.
- 佐藤 赴 (2012) . 「地域資源の分布と空間的相互作用」『農村計画学会誌』31, 321-326.
- 篠原正典・下岡ゆき子・岩瀬剛二・渡邊浩一郎・橋本慎治 (2012) . 「自主参加型実習「うえのはら自然合宿」および「TEIKA 自然学校」の実施概要および参加学生の意識調査に関する報告」『帝京科学大学紀要』8, 189-191.
- 篠原正典・下岡ゆき子・岩瀬剛二・渡邊浩一郎・橋本慎治・落合鐘一 (2013) 「自主参加型実習「TEIKA 自然合宿」の実施概要および参加学生の意識調査に関する報告」『帝京科学大学紀要』9, 177-180.
- 鈴木和次郎・中野陽介・酒井暁子 (2016) . 「只見ユネスコエコパークが目指すもの ―過疎・高齢化に直面する山間地域における自然環境と資源を活用した地域振興―」『日本生態学会誌』66, 135-146.
- 常澄村教育委員会 (1991) . 『大串貝塚 常澄村埋蔵文化財調査報告 第4集』.
- 植木岳雪・糟谷大河・小濱 剛・手束聡子・戸塚唯氏 (2016) . 「茨城県中部における大学3年生を対象とした野外実習の実践報告」『千葉科学大学紀要』9, 195-205.
- 植木岳雪 (2021) . 「非日常を体験する大学の野外実習：伊豆大島の例」『国際教育研究所紀要』31, 67-76.

Field Excursion on Natural Resources and Regional Development Promotion to University Students of Environmental Science Course

Takeyuki Ueki

(Teikyo University of Science)

Field excursion on natural resources and regional development promotion was done in 2017, to university students of environmental science course. In central Ibaraki Prefecture, they participated in fishing and cooking activities, and arrived the shell farm, research institute on mushroom, and historic park. Questionnaires showed a good evaluation for the excursion.

Keywords: Regional development promotion, Field excursion, Natural resource, Environmental education, Ibaraki Prefecture